

まえがき

本書について

本書は、京都大学デザインスクールで2013年から毎年開講している大学院講義「インフォメーションデザイン論」の内容をまとめたものである。情報のデザインとは何だろうか。情報を「デザイン」するとは、一体、何のために、何を、どのようにして「デザイン」するのであろうか。コンピュータサイエンスカリキュラムにおいても、「情報デザイン」という教育科目は設定されておらず、また、学術領域として「情報デザイン」がありえるのかどうかも定かではない。本書の著者らは、このような根源的な問題意識をもって、この講義を行ってきた。情報デザインの「教科書」を目指して本書を執筆する過程においても、この問題意識が常に根底にあった。

情報デザインとは何か

どんなに価値のある情報も人から人にきちんと伝えられなければ意味がない。伝えたい情報が受け手にきちんと伝わるために、受け手にとってわかりやすく、理解・共感しやすいような情報表現を行う必要がある。この意味で、情報デザイン(information design)とは、情報の受け手が理解しやすいように、情報を表現・提示するプロセスであるといえる。「インフォグラフィックス(infographics)」の専門家である木村は、本書の中で、「インフォグラフィックスとは、『伝えたい

メッセージ』を『伝わるメッセージ』にすることである」と明確に述べている。適切な情報デザインを行えれば、社会で生成されるさまざまな情報を、受け手にとって理解しやすく、わかりやすい形で提示することができる。

情報の表現・提示

我々は、伝えたい情報を、ことば、音声、図式、画像、映像などさまざまなメディアを用いて表現し伝えている。この意味では、情報デザインは、情報の表現・提示に関する方法論ともいえる。実際、本書で述べるように、言語表現、グラフィック表現、音声表現、画像・映像表現などの情報表現で、情報の受け手に効果的に情報を伝えるための方法論を多く提供している。たとえば、映像表現の場合は、映像文法が重要な方法論である。また、消費者に訴求する広告やキャッチコピーの制作は、消費者にとってわかりやすく共感しやすい形でことばや映像で情報表現したものである。さらに、ユーザインタフェースやインターラクションは人と機械の対話を効果的に行うものであり、対話のデザインも重要になる。

情報の構造化

伝えたい情報をわかりやすく表現するためには、伝えたい情報の「構造化」が必要といわれている。情報の構造化とは、単純に言えば、情報の

分類である。本書では、情報の分類手法に加えて、情報の概念構造を表現する概念モデリングについても述べている。ピクトグラム（絵文字）のデザインを取り上げ、概念モデリングを行うことで、統一感の高いピクトグラムをデザインできることを示唆している。

情報の理解と共感

情報が「わかりやすい」、「理解しやすい」とはどういうことであろうか。また、「理解」にも分析的理解と比喩的理解があるように、そもそも「理解」とはどういうことであろうか。情報デザインにおいては、情報の受け手がその情報を理解しやすい、わかりやすいと感じることが重要である。さらに、感情的な情報や人の思いの情報の場合は、理解できるだけでなく、受け手が共感できるような表現を行うことが重要である。また、情報の「わかりやすさ」は受け手に依存する部分もある。この意味では、「(表現された)情報のわかりやすさ」は人間の認知的特性である。このことから、情報デザインの中での根源的な学術的事項として認知心理学、認知言語学などの知見が重要なとなる。

情報デザインの役割

情報デザインとは、情報を対象者に的確、効果的に伝えるための規範・方法論であると割り切ってみよう。伝えたい情報を受け手がわかりやすく感じるように情報表現を行うことが情報デザインの役割といってよいと考えられる。そのための規範や方法論は多々あるが、本書では、主に、読みやすさ（可読性）、普遍性／専門性、具体性／抽象性、ストーリー性、図式表現、視点の転換、比喩、映像文法、演出などを取り上げている。驚くべきことであるが、これら多くの規範・方法論は、表現するメディア（ことば、グラフィック、映像、対話など）とは独立である。たとえば、視

点の転換は、ことばのデザイン、映像のデザイン（映像文法）、インフォグラフィックスのデザインに頻出する方法論である。また、比喩は、ことば（詩歌）のデザイン、インターフェースのデザインの中で多用されている。本書の読者がこのことに気づいていただければ著者らの喜びである。

謝辞

最後に、本書の作成にご協力いただいた関係各位、筆の遅い（一部の？）著者への督促や緻密な校正を行っていただいた共立出版（株）の石井徹也氏に感謝申し上げる。

2018年4月

田中 克己・黒橋 穎夫